

酵素阻害作用を有する。グルタミン酸は生体内エネルギー産生、アミノ酸合成及び神経伝達において重要な役割を果たしていることから、本試験は以下の点を解明することを目的に実施された。

- ①グルタミン、グルタミン酸、グリシン、アスパラギン酸及びアラニンの生体内濃度に及ぼす影響
- ②グルタチオンの生体内濃度に及ぼす影響
- ③本検体の代謝物が $\alpha$ -ケトグルタル酸に類似していることによる糖新生及びクエン酸回路への影響
- ④脳内のアミノ酸系神経伝達物質及びカテコールアミンの濃度に及ぼす影響

Wistar ラット（一群雌雄各 40 匹）にグルホシネートを 4 週間混餌（原体：0、40、200、1,000 及び 5,000 ppm）投与して、メカニズム試験が実施された。

その結果、グルタミン合成酵素阻害は、肝臓では 200 ppm 以上投与群の雌雄で、腎臓では 200 ppm 以上投与群の雄で、また、脳では 5,000 ppm 投与群の雄で認められた。5,000 ppm 投与群の雄では脳のグルタミン濃度が投与終了時に一時的に低下した。本酵素に関連する基質濃度の変化としては、投与終了時のグルタミン濃度のみに変化がみられ、肝臓では 200 ppm 以上投与群の雄、脳については 5,000 ppm 投与群の雄で低下がみられた。アンモニア濃度に影響はみられなかった。脳内のカテコールアミン濃度の変化もみられなかった。

したがって、グルホシネートの中樞神経刺激作用は、アンモニア又はグルタミン酸の蓄積によるものではなく、機序の解明には至らなかった。40 ppm 投与群には毒性学的に意義のある変化は認められず、無毒性量は 40 ppm (3.7 mg/kg 体重) と考えられた。(参照 2)

#### (6) グルホシネートの各種神経伝達物質受容体との *in vitro* 結合実験

グルホシネートの脳内神経伝達物質との相互作用の可能性について解析するために、ラット又はウシの脳を材料として脳神経シナプス部の膜成分（受容体を含む）を調製し、グルホシネートと種々の神経伝達物質受容体（ $\gamma$ -アミノ酪酸 (GABA) 受容体、ノルアドレナリン受容体、ドーパミン受容体、セロトニン受容体、ベンゾジアゼピン受容体及び Ca イオンチャンネル受容体）との *in vitro* での結合実験が実施された。

その結果、グルホシネートはこれらの神経伝達物質受容体について、競合阻害は起こさないものと判断された。(参照 2)

(7) ミトコンドリア画分における酸化的リン酸化に対する影響

グルホシネートはグルタミン酸の構造類似体である。グルタミン酸はクエン酸回路の基質のひとつであることから、グルホシネートのミトコンドリア画分（ラットの肝臓から調製）における酸化的リン酸化に対する影響について検討された。

その結果、グルホシネートはミトコンドリア画分におけるコハク酸、 $\alpha$ -ケトグルタル酸、グルタミン酸又はグルタミンを基質とした酸化的リン酸化に対して影響を及ぼさないものと判断された。（参照 2）

(8) AST、ALT、GGT 及び GLDH 活性に対する影響

グルホシネート及びその遊離酸体の各種酵素に対する影響について、*in vitro* 検討試験が実施された。

AST、ALT 及び GGT の活性はいずれの検体によっても影響を受けなかった。GLDH はグルホシネート及び遊離酸の添加時に、対照より各々 19 及び 15%低下した。（参照 2）

(9) グルホシネート及び代謝物 Z の 90 日間混餌投与後のグルタミン合成酵素活性測定

Wistar ラット（一群雄 10 匹）にグルホシネート又は代謝物 Z を 90 日間混餌（原体：0、100 及び 1,000 ppm、代謝物 Z：0、1,000 及び 10,000 ppm）投与して、投与 6、13、20 及び 90 日後の肝臓、脳及び腎臓由来グルタミン合成酵素活性が測定された。

投与 6 日後以降には、いずれの投与群においても肝臓及び腎臓由来グルタミン合成酵素活性阻害（約 20%以上）が認められたが、脳由来グルタミン合成酵素活性は試験期間を通じて阻害されなかった。投与終了後 31 日の回復期間で酵素活性の回復が認められた。（参照 2、17）

(10) グルタミン合成酵素活性阻害試験（ラット）

Wistar ラット（生後 11 週間）の肝臓、腎臓及び脳より抽出されたグルタミン合成酵素を用いて、グルホシネートアンモニウム塩及び代謝物 Z（原体：0、0.003、0.008、0.026、0.077、0.26、0.77 及び 1.3 mM、代謝物 Z：0、0.13、0.38、0.63、1.3、6.3 及び 13 mM）によるグルタミン合成酵素活性阻害試験が実施された。

いずれの組織の酵素においても、グルホシネートアンモニウム塩は用量相関性のある阻害を示し、腎臓を除く他の組織では 0.77 mM 以上処理群で約 20%以上の阻害を示した。Z では、肝臓由来グルタミン合成酵素の 13 mM 処理群で 15%の阻害が認められたが、他の組織では 2~7%の阻害しか認められなかった。（参照 17）

### Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて農薬「グルホシネート」の食品健康影響評価を実施した。

$^{14}\text{C}$  で標識したグルホシネートのラットを用いた動物体内運命試験の結果、経口投与されたグルホシネートの消化管からの吸収率は低く、ほとんどが親化合物として主に糞中を介して排泄された。静脈内投与では、投与放射能の大部分が尿を介して排泄された。体内に吸収されたグルホシネートは主に腎臓、肝臓及び脾臓に分布し、経時的に減少した。主要代謝物は酸化的脱アミノ化の後、脱炭酸された B であった。また、植物中での主要代謝物でもある B の消化管吸収率は高く 90%程度であったが、遺伝子組換え作物中の主要代謝物 Z の吸収率は低かった。

$^{14}\text{C}$  で標識したグルホシネートの農作物を用いた植物体内運命試験の結果、非遺伝子組換え作物における主要代謝物は B であった。グルホシネート耐性遺伝子組換え作物における主要代謝物は Z であり、グルホシネート耐性遺伝子組換え作物に特有であった。また、非遺伝子組換え作物と同様の代謝物 B 及び F も認められた。

グルホシネート及び代謝物 B を分析対象化合物とした作物残留試験の結果、グルホシネートの最大残留値は、散布 7 日後に収穫したはつかだいこん（葉部）の 0.06 mg/kg であり、代謝物 B の最大残留値は、散布 121 日後に収穫した稲わらの 0.17 mg/kg、可食部では散布 21 及び 35 日後に収穫したさんしょうの 0.16 mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、グルホシネート投与による影響は、中枢神経、腎臓及び血液に認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。中枢神経への影響については、本剤のグルタミン合成酵素活性阻害が関連している可能性が示唆され、メカニズム試験が実施された。その結果、中枢神経への影響は、アンモニアやグルタミン酸の蓄積とは関連しないと考察されている。

植物における主要代謝物 B は、ラット及びウサギを用いた発生毒性試験において、毒性所見がみられた。また、グルホシネート耐性遺伝子組換え作物の主要代謝物 Z は、ラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験において、親化合物と同様に腎臓への影響がみられ、ウサギを用いた発生毒性試験においても毒性所見が認められた。これらの毒性影響は、いずれも親化合物より弱いものであったが、B 及び Z は、植物体内運命試験又は作物残留試験において親化合物より高い残留が認められる場合があることから、食品中の暴露評価対象物質をグルホシネート並びに代謝物 B 及び Z と設定した。

評価に用いた各試験における無毒性量等は表 42 に示されている。

各試験で得られた無毒性量の最小値はイヌを用いた 90 日間亜急性毒性試験の 2.0 mg/kg 体重/日であったが、より長期の試験であるイヌを用いた 1

年間慢性毒性試験の無毒性量は 5 mg/kg 体重/日であり、この差は用量設定の違いによるものと考えられた。

以上より、食品安全委員会は、各動物種で得られた無毒性量の最小値がラットを用いた 2 年 6 カ月間慢性毒性/発がん性併合試験の 2.1 mg/kg 体重/日であったので、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.021 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量 (ADI) と設定した。

ADI	0.021 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年 6 カ月
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.1 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

暴露量については、当評価結果を踏まえ暫定基準値の見直しを行う際に確認することとする。

表 42 各試験における無毒性量の比較

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) <sup>1)</sup>				
			JMPR	米国	豪州 <sup>2)</sup>	農薬抄録	食品安全委員会
ラット	90日間 亜急性 毒性試験 ①	0、8、64、500、 4,000 ppm 雄：0、0.52、4.1、 32、263 雌：0、0.63、4.8、 39、311	雄：4.1 雌：39 雄：腎絶対及び比 重量増加 雌：体重増加抑制	雄：6.2~8.8 雄：脳グルタミン 合成酵素阻害	0.67 腎、胸腺重量増加 等	雄：4.1 雌：39 雌雄：腎絶対及び 比重量増加	雄：4.1 雌：39 雌雄：腎絶対及び 比重量増加
	90日間 亜急性 毒性試験 ②	0、7,500、10,000、 20,000 ppm 雄：0、522、686、 1,350 [0、520、690、1,400] <sup>3)</sup> 雌：0、574、741、 1,440 [0、570、740、1,400] <sup>3)</sup>	雄：520 未満 雌：570 未満 血液生化学検査 値、FOB 変化	/	520 未満 血液生化学検査値 変化	雄：522 未満 雌：574 未満 雌雄：縮腫、無気 力等	雄：522 未満 雌：574 未満 雌雄：縮腫、無気 力等
	5週間 亜急性 神経毒性 試験	0、20、200、2,000 ppm 雄：0、1.5、14.9、143 雌：0、1.8、17.1、162	/	雄：1.5 雌：1.8 脳グルタミン合成 酵素阻害	/	雄：143 雌：162 雌雄：毒性所見なし	雄：143 雌：162 雌雄：毒性所見なし
	2年6カ月間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、40、140、500 ppm 雄：0、2.1、7.6、26.7 雌：0、2.5、8.9、31.5	2.1 肝グルタミン合成 酵素阻害  (発がん性は認めら れない)	雄：24.4 雌：8.2 雄：毒性所見なし 雌：脳グルタミン合 成酵素阻害  (発がん性は認めら れない)	2.1 腎グルタミン合成酵素 活性上昇、腎重量増加、 脳グルタミン合成酵素 阻害、肝及び血中 GSH 減少 (発がん性は認めら れない)	雄：2.1 雌：2.5 雄：腎絶対及び比 重量増加 雌：死亡率増加  (発がん性は認めら れない)	雄：2.1 雌：2.5 雄：腎絶対及び比 重量増加 雌：死亡率増加  (発がん性は認めら れない)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) <sup>1)</sup>				
			JMPR	米国	豪州 <sup>2)</sup>	農薬抄録	食品安全委員会
	2年間 発がん性 試験	0、1,000、5,000、 10,000 ppm ----- 雄：0、45.4、229、 466 雌：0、57.1、282、 579	45  網膜萎縮	雄：45.4 雌：57.1  雌雄：網膜萎縮  (発がん性は認めら れない)	45  網膜萎縮  (雌で皮膚腫瘍発生 頻度増加)	雄：45.4 未満 雌：57.1 未満  雌雄：腎絶対及び 比重量増加  (発がん性は認めら れない)	雄：45.4 未満 雌：57.1 未満  雌雄：腎絶対及び 比重量増加  (発がん性は認めら れない)
	2世代 繁殖試験	0、40、120、360 ppm ----- P雄：0、2.7、8.1、24 P雌：0、4.2、12、36 F <sub>1</sub> 雄：0、2.7、8.1、24 F <sub>1</sub> 雌：0、3、12、33	繁殖能：12  同腹児数減少	親動物：18 児動物：6.0 繁殖能：6.0  親動物：毒性所見 なし 児動物：生存児数 減少 繁殖能：生存児数 減少	4  着床前及び着床後 胚死亡率上昇等	親動物 P雄：8.1 P雌：12 F <sub>1</sub> 雄：8.1 F <sub>1</sub> 雌：12  児動物 P雄：8.1 P雌：12 F <sub>1</sub> 雄：8.1 F <sub>1</sub> 雌：12  親動物： 哺育期間中摂餌量 減少  児動物： 生産児数減少	親動物 P雄：24 P雌：12 F <sub>1</sub> 雄：24 F <sub>1</sub> 雌：12  児動物 P雄：8.1 P雌：12 F <sub>1</sub> 雄：8.1 F <sub>1</sub> 雌：12  親動物 雄：毒性所見なし 雌：摂餌量減少  児動物 生産児数減少  (繁殖能に対する影 響は認められない)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) <sup>1)</sup>				
			JMPR	米国	豪州 <sup>2)</sup>	農薬抄録	食品安全委員会
	発生毒性試験①	0、10、50、250	母動物及び胎児： 10未満  母動物：運動心拍等 胎児：腎盂及び尿管拡張の発生頻度増加	①②③試験の総合評価  母動物：10 胎児：50  母動物：活動性亢進 胎児：腎盂拡張	10未満  母動物：運動心拍等 胎児：腎盂及び尿管拡張の発生頻度増加	母動物及び胎児： 10未満  母動物：活動性亢進等 胎児：腎盂または尿管拡張の発生頻度増加	①②③試験の総合評価  母動物：10 胎児：50  母動物：臆出血、粗毛 胎児：腎盂及び尿管拡張の発生頻度増加  (催奇形性は認められない)
	発生毒性試験②	0、0.5、2.2、10	母動物及び胎児： 2.2  母動物：腎及び脾重量増加 胎児：後肢の血液嚢腫(1腹中2例)		2.2	母動物及び胎児： 10  母動物及び胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められない)	
	発生毒性試験③	0、0.5、2.2、10	母動物及び胎児： 10  母動物及び胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められない)			母動物及び胎児： 10  母動物及び胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められない)	
	発達神経毒性試験	0、200、1,000、4,500 ppm 0、14、69、292		母動物：69 児動物：14未満  母動物：体重増加抑制等 児動物：歯状回の腹側脚の長さの減少		母動物及び児動物： 14  母動物：体重増加抑制等 児動物：自発運動量増加等	母動物及び児動物： 14  母動物：体重増加抑制等 児動物：自発運動量増加等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) <sup>1)</sup>				
			JMPR	米国	豪州 <sup>2)</sup>	農薬抄録	食品安全委員会
マウス	90日間 亜急性 毒性試験 ①	0、80、320、1,280 ppm 雄：0、17、67、278 雌：0、19、87、288	雄：17 雌：19 雄：カリウム増加	雄：48 雌：192 雄：生化学検査値 及び肝重量の変化 雌：毒性所見なし		雄：17 雌：19 雄：カリウム増加等 雌：RBC 及び Ht 減少	雄：17 雌：19 雄：カリウム増加 雌：RBC 及び Ht 減少
	90日間 亜急性 毒性試験 ②	0、1,750、3,500、 7,500 ppm 雄：0、274、561 雌：0、356、644 *7,500 ppm 投与 群の平均検体摂取 量に関する情報なし	雄：274 未満 雌：356 未満 雌雄：摂餌量減少及 び低体重等		雄：274 未満 雌：356 未満 雌雄：摂餌量減少及 び低体重等	雄：274 未満 雌：356 未満 雌雄：体重及び摂餌 量減少等	雄：274 未満 雌：356 未満 雌雄：体重及び摂餌 量減少等
	2年間 発がん性 試験	雄：0、20、80、160 ppm 雌：0、20、80、320 ppm 雄：0、2.8、10.8、 22.6 雌：0、4.2、16.2、 64	雄：11 雌：16 雌雄：体重増加抑 制等 (発がん性は認めら れない)	雄：10.8 雌：16.2 雌雄：死亡率上昇、 Glu 増加等 (発がん性は認めら れない)	11 死亡率上昇、体重 増加抑制、GSH 減 少 (発がん性は認めら れない)	雄：10.8 雌：16.2 雌雄：体重増加抑 制等 (発がん性は認めら れない)	雄：10.8 雌：16.2 雌雄：体重増加抑 制等 (発がん性は認めら れない)



動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) <sup>1)</sup>				
			JMPR	米国	豪州 <sup>2)</sup>	農薬抄録	食品安全委員会
ウサギ	発生毒性試験	0、2、6.3、20	母動物及び胎児： 6.3  母動物：体重増加抑制、腎重量増加等 胎児：死亡率増加及び低体重  (催奇形性は認められない)	母動物及び胎児： 6.3  母動物：体重増加抑制、摂餌量減少 胎児：死亡率増加、低体重  (催奇形性は認められない)	母動物及び胎児： 6.3  母動物：体重増加抑制、腎重量増加等 胎児：死亡率増加及び低体重  (催奇形性は認められない)	母動物及び胎児： 6.3  母動物：体重増加抑制 胎児：死亡率増加  (催奇形性は認められない)	母動物及び胎児： 6.3  母動物：体重増加抑制 胎児：死亡率増加  (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間亜急性毒性試験	0、4、8、16、64、256 ppm  雄：0、0.1、0.3、0.6、2.1、8.0 雌：0、0.1、0.3、0.5、2.0、7.6	2  摂餌量減少等	/	1  甲状腺重量減少等	雄：2.1 雌：2.0  雌雄：体重増加抑制	雄：2.1 雌：2.0  雌雄：体重増加抑制
	1年間慢性毒性試験	0、2、5、8.5  [0、1.8、4.5、8.4] <sup>3)</sup>	5 (4.5)  一般状態の変化	5.0  死亡、心電図の変化	5  死亡率上昇、体重増加抑制等	雌雄：5  雌雄：一般状態の変化	雌雄：5  雌雄：一般状態の変化
ADI(cRfD)			NOAEL：2.1 SF：100 ADI：0.02	NOAEL：6.0 UF：1000 cRfD：0.006	NOEL：2.1 SF：100 ADI：0.02	NOAEL：2.1 SF：100 ADI：0.021	NOAEL：2.1 SF：100 ADI：0.021
ADI(cRfD)設定根拠資料			ラット2年6カ月間慢性毒性/発がん性併合試験	ラット90日間亜急性毒性試験、イヌ1年間慢性毒性試験	ラット2年6カ月間慢性毒性/発がん性併合試験	ラット2年6カ月間慢性毒性/発がん性併合試験	ラット2年6カ月間慢性毒性/発がん性併合試験

ADI：一日摂取許容量 cRfD：慢性参照用量 NOAEL：無毒性量 NOEL：無影響量 SF：安全係数 UF：不確実係数 /：試験記載なし

1) 無毒性量の欄には最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

2) 豪州ではすべてNOELが示されている。

3) JMPR資料に記載されている用量。

<別紙1：代謝物/分解物等略称>

記号	化学名
B	3-メチルホスフィニコプロピオン酸
C	3-メチルホスフィニコアクリル酸
D	2-ヒドロキシ-4-メチルホスフィニコブチレート二ナトリウム塩 (生体内では遊離酸)
E	3-メチルホスフィニコ-3-オキソプロピオン酸
F	2-メチルホスフィニコ酢酸
G	4-メチルホスフィニコ酪酸
Z	L-2-アセトアミド-4-メチルホスフィニコブチレート二ナトリウム塩 (生体内では遊離酸)

<別紙 2 : 検査値等略称>

略称	名称
AChE	アセチルコリンエステラーゼ
ai	有効成分量 (active ingredient)
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT) ]
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ (GOT) ]
Bil	ビリルビン
CK	クレアチンキナーゼ
C <sub>max</sub>	最高濃度
FOB	機能観察総合検査
GABA	γ-アミノ酪酸
GGT	γ-グルタミルトランスフェラーゼ [=γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GTP) ]
Glu	グルコース (血糖)
GLDH	グルタミン酸デヒドロゲナーゼ
GSH	還元型グルタチオン
Ht	ヘマトクリット値
LC <sub>50</sub>	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	半数致死量
LDH	乳酸脱水素酵素
PT	プロトロンビン時間
RBC	赤血球数
T <sub>1/2</sub>	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
TG	トリグリセリド
T <sub>max</sub>	最高濃度到達時間
TOCP	リン酸トリ- <i>o</i> -クレジル
TRR	総残留放射能
UDS	不定期 DNA 合成
Ure	尿素

<別紙3：作物残留試験成績>

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)												
					公的分析機関					社内分析機関							
					グルホシネート		B		合計	グルホシネート		B		合計			
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値				
水稻 (玄米) 1986年度	1	1,850 <sup>L</sup>	1	121	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.05	<0.01	<0.01	0.06	0.05	0.06			
	1			142	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.05	<0.01	<0.01	0.04	0.04	0.05			
水稻 (稲わら) 1986年度	1	1,850 <sup>L</sup>	1	121	<0.02	<0.02	0.17	0.17	0.19	<0.02	<0.02	0.15	0.15	0.17			
	1			142	<0.02	<0.02	0.12	0.12	0.14	<0.02	<0.02	0.08	0.08	0.10			
水稻 (玄米) 1988年度	1	1,850 <sup>L</sup>	3*	50	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03			
	1			84	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03			
小麦 (玄麦) 1986年度	1	1,390 <sup>L</sup>	1	297	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	0.03	0.02	0.03			
	1			185	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03			
小麦 (玄麦) 2006年度	1	1,390 <sup>L</sup>	4*	7	<0.01	<0.01	0.013	0.012	0.02	<0.01	<0.01	0.01	0.01	0.02			
				14	<0.01	<0.01	0.016	0.016	0.03	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03			
	21			<0.01	<0.01	0.017	0.017	0.03	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03				
	9			<0.01	<0.01	0.023	0.022	0.03	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.04				
	18			<0.01	<0.01	0.021	0.018	0.03	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03				
大麦 (種子) 2005年度	1	1,390 <sup>L</sup>	4*	7	<0.05	<0.05	<0.07	<0.07	<0.2	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.2			
				14	<0.05	<0.05	<0.07	<0.07	<0.2	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.2			
	22			<0.05	<0.05	<0.07	<0.07	<0.2	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.2				
	7			<0.05	<0.05	<0.07	<0.07	<0.2	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.2				
	10			<0.05	<0.05	<0.07	<0.07	<0.2	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.2				
そば (種子) 2007年度	1	925 <sup>L</sup>	3	7	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04	<0.09	/	/	/	/	/			
				3	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04	<0.09	/	/	/	/	/			
	7			<0.05	<0.05	<0.04	<0.04	<0.09	/	/	/	/	/				
	1			<0.05	<0.05	<0.04	<0.04	<0.09	/	/	/	/	/				
	3			<0.05	<0.05	<0.04	<0.04	<0.09	/	/	/	/	/				
だいず (乾燥子実) 1986年度	1	1,390 <sup>L</sup>	1	139	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03			
				126	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03			
	1		2	89	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03			
				70	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03			
				34	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02			
だいず (乾燥子実) 2003年度	1	925 <sup>L</sup>	3	41	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02			
				35	0.05	0.05	0.03	0.03	0.08	0.02	0.02	0.01	0.01	0.03			
	1			43	0.03	0.03	<0.02	<0.02	0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02			
					1	925 <sup>L</sup>	3	7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	/	/	/	/
								14	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	/	/	/	/
20	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02			/	/	/	/						
1	8	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007			<0.02	/	/	/	/					
		14	<0.01	<0.01	<0.007			<0.007	<0.02	/	/	/	/				
		20	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	/	/	/	/						

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					ゲルホネット		B		合計	ゲルホネット		B		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
ぼんしよ (塊茎) 1985年度	1	463L	1	82	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1	925L	1	88	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
さといも (球茎) 1986年度	1	925L	3	31	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
かんしよ (塊根) 1986年度	1	925L	2	83	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			88	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
かんしよ (塊根) 2004、 2005年度	1	555L	2	21	<0.005	<0.005	<0.007	<0.007	<0.02	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	<0.009
				29	<0.005	<0.005	<0.007	<0.007	<0.02	.	.	.	.	.
	35			<0.005	<0.005	<0.007	<0.007	<0.02	.	.	.	.	.	
	1			21	<0.005	<0.005	<0.007	<0.007	<0.02	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	<0.009
28		<0.005	<0.005	<0.007	<0.007	<0.02	.	.	.	.	.			
35	<0.005	<0.005	<0.007	<0.007	<0.02	.	.	.	.	.				
やまのいも (塊根) 1986年度	1	925L	3	36	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.04
こんにやく いも (球茎) 1986年度	1	925L	3	26*	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.04
	1			29*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
だいこん (根部) 1986年度	1	925L	2	42*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			40*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
だいこん (葉部) 1986年度	1	925L	2	42*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			40*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
はつか だいこん (根部) 2004年度	1	925L	2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/
				17	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/
	1			7	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.06	/	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/
はつか だいこん (葉部) 2004年度	1	925L	2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/
				17	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/
	1			7	0.06	0.06	<0.01	<0.01	0.07	/	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/
21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/				
かぶ (根部) 2004年度	1	925L	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1			21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02				

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)										
					公的分析機関					社内分析機関					
					ケルシネット		B		合計	ケルシネット		B		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値		
かぶ (葉部) 2004年度	1	925L	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1			21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
はくさい (茎葉) 1986年度	1	925L	2	41*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
	1			40*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
キャベツ (葉球) 1984年度	1	925L	2	37*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
	1			42*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
ブロッコリー (花蕾) 2004年度	1	925L	2	1*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	
				3*						0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	
	7*								<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02		
	1			1*	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	
なばな (茎葉) 2003年度	1	925L	2	21	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
				28	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
	1			21	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
				28	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
				35	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
ごぼう (根部) 2003年度	1	925L	2	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
				3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
				7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
	1			1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
				3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
				7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	
レタス (茎葉) 1986年度	1	925L	2	33	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
食用ぎく (花全体) 2004年度	1	925L	2	14	<0.05	<0.05	<0.07	<0.07	<0.12	/	/	/	/	/	
	1			14	<0.05	<0.05	<0.07	<0.07	<0.12	/	/	/	/	/	
もりあざみ (根部) 2004年度	1	925L	3	30	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
				37	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
				44	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
	1			30	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
				37	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
				44	<0.02	<0.02	<0.03	<0.03	<0.05	/	/	/	/	/	
たまねぎ (鱗茎) 1986年度	1	925L	2	85	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	
	1			84	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					ゲルホシネット		B		合計	ゲルホシネット		B		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
たまねぎ (鱗茎) 2006、 2007年度	1	925L	2	1	0.04	0.04	<0.007	<0.007	0.05	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.05
				3	0.02	0.02	<0.007	<0.007	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				7	0.02	0.02	<0.007	<0.007	0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
	1			1	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				3	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
ねぎ (茎葉) 1986年度	1	925L	2	55	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03
	1			59	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
ねぎ (茎葉) 2006年度	1	925L	2	1	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				3	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1			1	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				3	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
にんにく (鱗茎) 2004年度	1	925L	2	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.10	/	/	/	/	/
	1			1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.10	/	/	/	/	/
にら (茎葉) 2004年度	1	925L	3	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1			1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
アスパラガス (若茎) 1986年度	1	1,390L	1	45	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			20	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1		2	31	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			20	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
アスパラガス (若茎) 2004年度	1	925L	2	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04	/	/	/	/	/
	1			1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.04	/	/	/	/	/
にんじん (根部) 1986年度	1	925L	2	32	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			30	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
にんじん (根部) 2005年度	1	925L	3	1	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				3	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1			1	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				3	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
パセリ (茎葉) 2007年度	1	925L	2	3	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3	/	/	/	/	/
				7	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3	/	/	/	/	/
				14	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3	/	/	/	/	/
	1			3	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3	/	/	/	/	/
				7	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3	/	/	/	/	/
				14	<0.1	<0.1	<0.2	<0.2	<0.3	/	/	/	/	/

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					ケルシネット		B		合計	ケルシネット		B		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
セルリー (茎葉) 2004年度	1	925 <sup>L</sup>	3	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03
				14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1			7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
トマト (果実) 1986年度	1	925 <sup>L</sup>	4*	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
ピーマン (果実) 1986年度	1	925 <sup>L</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
なす (果実) 1986年度	1	925 <sup>L</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
きゅうり (果実) 1986年度	1	925 <sup>L</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
かぼちゃ (果実) 1986年度	1	925 <sup>L</sup>	3*	31	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
しろり (果実) 2008年度	1	925 <sup>L</sup>	1	21	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04	<0.07	/	/	/	/	/
				28	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04	<0.07	/	/	/	/	/
				35	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04	<0.07	/	/	/	/	/
	1			21	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04	<0.07	/	/	/	/	/
				28	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04	<0.07	/	/	/	/	/
				35	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04	<0.07	/	/	/	/	/
すいか (果実) 1985年度	1	925 <sup>L</sup>	2	48	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
	1			62	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
すいか (果実) 2006年度	1	925 <sup>L</sup>	2	1	0.01	0.01	<0.007	<0.007	0.02	<0.01	<0.01	0.01	0.01	0.02
				3	<0.01	<0.01	0.008	0.008	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1			1	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				3	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
メロン (果実) 1986年度	1	925 <sup>L</sup>	2	30	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03
				にがうり (果実) 2008年度	1	925 <sup>L</sup>	2	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	/
3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02				<0.03	/	/	/	/	/	
7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	/	/	/	/	/				
	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	/	/	/	/				
3	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	/	/	/	/					
7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	/	/	/	/					



作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)									
					公的分析機関					社内分析機関				
					ゲルネット		B		合計	ゲルネット		B		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値		最高値	平均値	最高値	平均値	
ほうれんそう (茎葉) 2005年度	1	925 <sup>L</sup>	1	62	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				84	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1		2	7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				14	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1		2	21	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1		2	14	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				21	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
オクラ (果実) 2002年度	1	925 <sup>L</sup>	3	1	<0.01	<0.01	0.008	0.008	0.02	/	/	/	/	/
				3	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	/	/	/	/	/
				7	<0.01	<0.01	<0.007	<0.007	<0.02	/	/	/	/	/
しょうが (塊茎) 2004年度	1	925 <sup>L</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				4	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	.	.	.	.	.
				7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	.	.	.	.	.
	1		3	1	0.04	0.04	0.02	0.02	0.06	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04
				3	0.04	0.04	0.02	0.02	0.06	0.07	0.06	0.04	0.04	0.10
				7	0.06	0.06	<0.02	<0.02	0.08	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04
葉しょうが (根茎) 2006年度	1	925 <sup>L</sup>	2	14	<0.004	<0.004	0.043	0.042	0.05	/	/	/	/	/
				21	<0.004	<0.004	0.034	0.030	0.03	/	/	/	/	/
				28	<0.004	<0.004	<0.006	<0.006	<0.01	/	/	/	/	/
	1		2	14	<0.004	<0.004	0.035	0.032	0.04	/	/	/	/	/
				21	<0.004	<0.004	0.026	0.022	0.03	/	/	/	/	/
				28	<0.004	<0.004	<0.006	<0.006	<0.01	/	/	/	/	/
さやえんどう (さや) 2005年度	1	925 <sup>L</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	/	/	/	/	/
				1	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	/	/	/	/	/
さやいんげん (さや) 2004年度	1	925 <sup>L</sup>	3	1	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	<0.009	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	<0.009
				1	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	<0.009	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004	<0.009
えだまめ (さや) 1986年度	1	1,390 <sup>L</sup>	1	104	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.03
				94	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
	1		2	54	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.04	<0.01	<0.01	0.03	0.03	0.04
				38	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
えだまめ (さや) 2003年度	1	925 <sup>L</sup>	3	20	<0.01	<0.01	0.01	0.01	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02
				18	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	0.01	0.01	0.02
				26	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.01	<0.01	0.01	0.01	0.02
いちよう (種子) 2004年度	1	1,850 <sup>L</sup>	3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	/	/	/	/	/